

水俣展の鑑賞をおすすめします

池澤夏樹 (作家)	金子 勝 (経済学)	小宮悦子 (キャスター)	高橋源一郎 (作家)	中島岳志 (政治学)	森岡正博 (倫理学)
石井妙子 (ノンフィクション作家)	上條恒彦 (歌手、俳優)	小室 等 (ミュージシャン)	高橋睦郎 (詩人)	中村桂子 (元・JT 生命誌研究館長)	柳田邦男 (ノンフィクション作家)
いとうせいこう (クリエイター)	香山リカ (精神科医)	是枝裕和 (映画監督)	田口ランディ (作家)	萩尾望都 (漫画家)	山田 真 (医師)
伊藤比呂美 (詩人)	川本愛一郎 (患者家族)	斎藤美奈子 (文芸評論家)	竹下景子 (俳優)	平田オリザ (劇作家)	米本浩二 (作家)
上田紀行 (文化人類学)	姜 尚中 (政治学)	坂口恭平 (作家、アーティスト)	田中優子 (近世文化)	P・バラカン (ブロードキャスター)	若松英輔 (批評家)
緒方正人 (漁師、水俣病患者)	北川フラム (アートディレクター)	佐高 信 (経済評論家)	土屋恵一郎 (演劇評論、法哲学)	水戸岡鋭治 (デザイナー)	以上、50 音順
小田和正 (ミュージシャン)	木村友祐 (作家)	澤地久枝 (作家)	寺脇 研 (映画評論家、元・文科省)	森 達也 (映画監督)	
嘉田由紀子 (参議院議員)	小松原織香 (環境哲学)	潮谷義子 (元・熊本県知事)	長倉洋海 (写真家)	森 まゆみ (作家)	

特別協賛：関西よつ葉連絡会、部落解放同盟京都府連合会、創価学会平和委員会

協賛：京都文教大学鶴見和子文庫研究会、龍谷大学ユネスソーシャルビジネスリサーチセンター、使い捨て時代を考える会、コープ自然派京都、コープ自然派おおさか、コープ自然派奈良、コープ自然派兵庫、グリーンコープ、生活クラブ京都エル・コープ、ゆうとおん、ACT-K、阪南中央病院労働組合、京都労働者福祉協議会、自治労京都府本部、自治労近畿地区連絡協議会、京都教職員組合、大阪府教職員組合、京都平和フォーラム、フォーラム平和・人権・環境ひょうご、部落解放京都地方共闘会議、部落解放同盟大阪府連合会、部落解放同盟奈良県連合会、部落解放同盟滋賀県連合会、京都「被爆二世・三世の会」、水俣病・東海の会、京都・水俣病を告発する会、京都YWCA、ドキュメンタリーフィルム・サポーターズ、京都府宗教連盟、カトリック京都司教区、京都仏教会、曹洞宗京都府宗務所、真言宗総本山東寺、臨済宗妙心寺派、天理教京都教区、エックス都市研究所、ノーリン、アミタホールディングス

協力：日本自立生活センター、ちゅうぶ

チケット

	来場				オンライン	
	当日	前売	10枚つづり券	フリーパス	1プログラム	通し券
一般	1700円	1300円	10000円	10000円	2000円	10000円
30歳以下	1000円	700円	5000円	5000円	1300円	5000円

- ・入場は閉場の30分前までです。
- ・入場券1枚で展示会場に1名1回入場できます。
- ・乳幼児を伴う入場も可能ですが、他の方の鑑賞を妨げる場合はご退場いただきます。
- ・高校生・中学生・小学生の団体(20名以上または1クラス以上)は、事前申し込みに関り展示鑑賞は無料となります。
- ・20名以上の団体の展示会場入場料は前売料金となります。
- ・フリーパス(お名前、顔写真入り)をお持ちの方は、会期中、展示、ホールプログラムとも何度でもお入りいただけます。
- ・ホールプログラムは展示会場とは別の入場券プラス500円が必要です。
- ・小学校4年生以下および障害者の介護者は無料です。

お求めは

- ・チケットぴあ(セブンイレブン、ファミリーマート)、ローソンチケット(ローソン、ミニストップ)でチケットをお求めになれます(手数料がかかる場合があります)。店頭で端末操作を簡単にするチケットぴあの「Pコード」ナンバーは「995-045」、ローソンチケットの「Lコード」ナンバーは「56189」です。なお、ファミリーマートでの購入は、チケットぴあWebサイトで申込み後の店頭受け取りとなります。
- ・お安くご入場いただける10枚つづり前売券とフリーパスは、水俣フォーラムのみの取り扱いですので、下記の方法をご利用下さい。
- ・前売券の郵送をご希望の方は、郵便局常備の郵便振替用紙をご利用いただき、以下のように明記してご送金下さい。
口座番号「00120-4-398614」、加入者名「水俣フォーラム」、通信欄に券種・枚数
ご入金を確認次第、チラシ・チケットをお送りします。なお11月30日の受付印で締め切らせていただきます。
- ・ご来場のためのデジタルチケットの発売はありません。



オンラインのお申し込み

- ・ホールプログラムのYouTube録画配信は、<https://minamata-kyoto.peatix.com>にアクセスしてチケットをご購入下さい。なお、「水俣病一その20年」以外の映画上映部分の配信はありません。
- ・閉会後の12月26日(木)からYouTubeで配信し、2025年1月末まで何度でも視聴可能です。
- ・配信プログラムすべてを視聴可能で割安な通し券を含めて、2025年1月末までご購入いただけます。



会場

京都市勧業館みやこめっせ 地下1階

京都市左京区岡崎成勝寺町9-1 TEL:075-762-2630(平日のみ)

京都市営地下鉄東西線「東山駅」より徒歩約8分

「京都駅」D2乗り場より市営バス206系統乗車約25分「東山二条・岡崎公園口」下車徒歩4分

四条河原町より市営バス32・46系統乗車約12・16分「岡崎公園 ロームシアター京都・みやこめっせ前」下車徒歩1分

車イス利用者のためのアクセス案内を11月1日から下記のホームページで掲載します。

※会期後半は混雑が予想されますので、ゆったりご鑑賞いただける前半のご来場をお勧めします。



お問い合わせ

認定NPO法人

水俣フォーラム

〒169-0075 新宿区高田馬場1-34-12-404
TEL:03-3208-3051 FAX:03-3208-3052
E-mail:mf1997@minamata-f.com



ホームページ



X(旧Twitter)



Facebook

会場ボランティアへの参加とご寄付のお願い

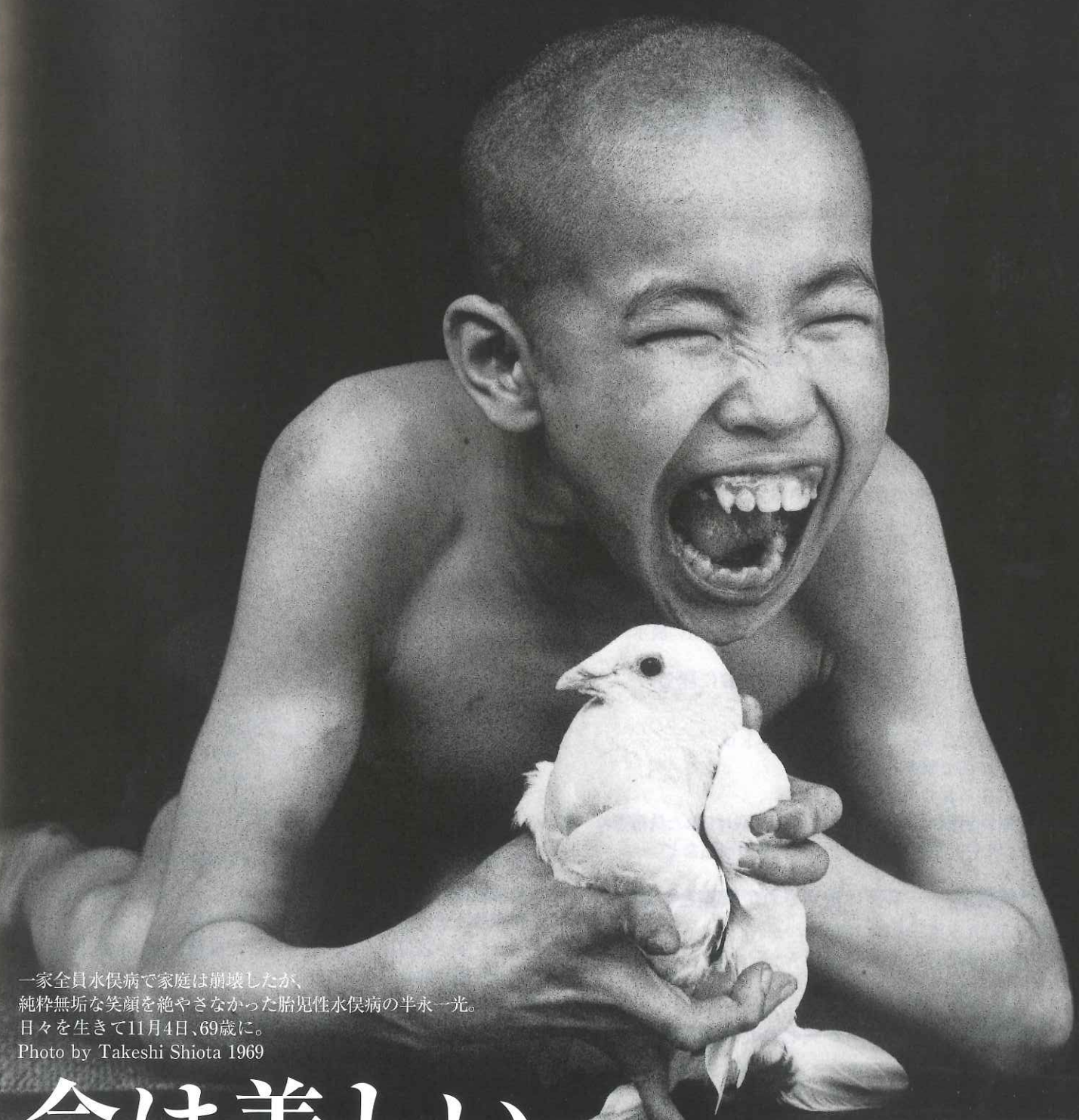
水俣・京都展開催のためには多くの労力と資金を必要とします。ポスター貼りや事務作業、設営などの開催準備や会場の設営・撤収と運営にボランティアとしてご参加いただける中学生以上の方は、上記まで早めにご連絡下さい。説明会のご案内などの詳細資料をすぐにお送りします。ご寄付は、郵便振替口座「00120-4-398614」加入者名「水俣フォーラム」にご送金下さい。なお、ボランティアに参加された方とご寄付いただいた方には謝意を表し、「開催協力者」として会場にお名前を掲示させていただきます。

2024年12月7日(土)ー22日(日) みやこめっせ 午前9時30分ー午後5時(火曜・木曜は6時、最終日は3時まで、初日は10時から)

主催：水俣フォーラム／後援：京都府・京都府教育委員会・大阪府教育委員会・兵庫県教育委員会・滋賀県教育委員会・奈良県教育委員会・京都市・京都市教育委員会・朝日新聞社・毎日新聞社・読売新聞京都総局・京都新聞社・産経新聞社・NHK京都放送局・MBSテレビ・KBS京都・朝日放送テレビ・読売テレビ・共同通信社・時事通信社

水俣・京都展

MINAMATA Kyoto Exhibition



一家全員水俣病で家庭は崩壊したが、
純粹無垢な笑顔を絶やさなかった胎児性水俣病の半永一光。
日々を生きて11月4日、69歳に。
Photo by Takeshi Shiota 1969

命は美しい。

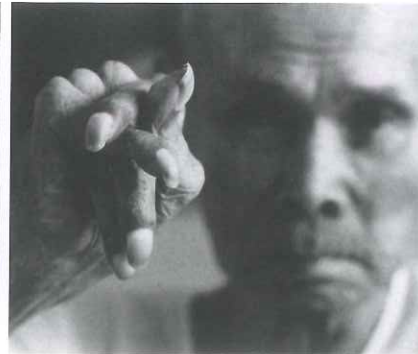
開催にあたって

水俣病は海外でも知られる大規模な環境汚染事件です。その発生に人類が気付いてすでに70年近くになりますが、現在でもなお解決したとは言えません。それは、第一に汚染地域の全住民健康調査さえなされないまま補償をめぐる争いが続くからであり、第二にこの事件同様の加害構造と被害の放置拡大を指摘される事態が福島においても続いているからであり、第三に原因物質の有機水銀による健康影響が次世代を含む全世界で危惧され

写真は桑原史成、塩田武史、河野裕昭



5歳の時、言葉も意識も奪われた11歳の少女 '62



指が硬直した漁師 '70



抗議する患者 '72



胎児性水俣病患者 '68

展示

■メイン展示……悲しみの底に何が見えるか

プロローグ：1956年4月、幼い少女を「奇病」が襲った
クロニクル：映像でたどる水俣病と私たちの60年
展示1：水俣の美しい自然・豊かな風土
展示2：水俣病とは何か
展示3：水銀はなぜ止まらなかったのか
展示4：被害者は何を求めたのか
展示5：その後の水俣と水俣病事件
エピローグ：「彼岸の団欒を垣間みる」石牟礼道子

■患者遺影……死者たちが来場者を見つめる

「水俣」シリーズで知られる記録映画作家・土本典昭夫妻が1年間水俣に滞在。所在が判明した800軒の遺族を訪ね遺影を収集。その後の収集とあわせ500影を空間一面に展示。

■実物展示……残された物こそ雄弁に語る

水俣病発症量のメチル水銀
水俣湾の海底にあった高濃度の水銀ヘドロ
患者が半年間で服用した薬のカラ
水俣湾に張られていた汚染魚仕切網
患者の面会を阻むためチッソ本社入り口に設けられた鉄格子の一部
チッソ(現JNC)製の素材を用いた現在の商品など

■美術展示……事実は表現されて真実となる

丸木位里・丸木俊「水俣の図」レプリカ
中村正義「何処へいく」「おそれA」「おそれB」レプリカ
中村一美「水俣」レプリカ

■写真展示……レンズが失われた声を聞いた

W.ユージン・スミス+アイリーン・M.スミス
桑原史成「水俣病・原点から」
塩田武史「水俣・深き淵より」
芥川仁「水俣・厳存する風景」

る状況にあるからです。このような中で私たちは、30年近く前から水俣病についての展示会を全国各地で続けてきましたが、水俣病についての国の責任を確定した関西訴訟の最高裁判決から20年の年に、近畿では18年ぶり京都では初めての水俣展を開催します。被害民の言葉と姿にあふれる会場で、そのメッセージをどうぞお受け取り下さいますようお願い申し上げます。

2024年9月 水俣フォーラム

水俣病事件の事実は現代日本に何を物語るのか。

■事件史の証言コーナー……当事者の生の声を聞く

水俣病患者をはじめ、当事者ともいうべき立場に立たされた方による15分の「あの時、私は」。プログラムはホームページ参照。また「誰が水俣病を起こしたのか」「水俣病は治らないのか」「水俣病の解決とは何か」など8つの設問にQ&A方式で答える映像を常時放映。

■展示説明会

土曜日	月曜日	火曜日
9:50~10:30	○	—
11:20~12:00	○	○
14:50~15:30	○	○
16:50~17:30	—	○

専門の説明員や研修を受けたボランティアが順路に沿って定時に40分ご案内します。ただし、初日の第1回は10時から。定時以外の説明をご希望の団体は前日までにお申し込み下さい。

■水俣病ブックフェア……さらに深く知るために

ノンフィクションはもとより文学作品、写真集、学術書、文庫、新書、児童書、絵本など、もっと知りたい方のために、一般書店ではなかなか手に入らない水俣病の本とDVDなど、300点を集めて販売。貴重・廉価な古書や宅配便の取り扱いも。

■水俣物産展……モノを通して暮らしと志が出会う

患者家族が漁り作った無添加のいりこ、ひじき、あおさなどの海産物、患者運動を支えた低農薬の甘夏、これで作ったマーマレード、以前は産地水俣を伏せた無農薬茶、海を汚さない安全な廃食油せっけんほか。

オープニングセレモニー

開催初日の12月7日(土)午前9時30分より10時まで展示会場入口にて開催します。どなたでもご参加いただけます。また、終了後には展示説明会を行います。

ホールプログラム——「水俣病」の経験から何を学ぶか。展示を超えて、さらに学びたい人のために。

■アイリーン・M・スミスさんと映画「MINAMATA—ミナマタ」を見る

12月8日(日)午後2時~4時30分
製作・主演：ジョニー・デップ
2020年/カラー1時間55分

アイリーン・M・スミス
(フォトジャーナリスト、環境活動家)

国際的に知られる写真作品群を残したユージンとアイリーン。2人の水俣を描いたハリウッド映画を見て、当のアイリーンが語る「今も世界中で続く水俣病との闘い」。



©2020 MINAMATA FILM LLC

■上野千鶴子さんと映画「水俣病—その20年」を見る

12月10日(火)午後7時~9時
土本典昭監督作品 1976年/カラー43分

上野千鶴子(家族社会学)

ジェンダーと家族、社会と国家を辛辣に語り続けてきた講師は、「水俣から世界へのメッセージ」という海外向けタイトルをもつ「土本の水俣」シリーズの結晶を見て何を語るか。



撮影：菅野勝男

■「私と水俣病」—患者さんのお話から

12月12日(木)午後7時~9時

小笹 恵(大阪府在住、元・水俣病関西訴訟原告)

白井 聡(政治学、京都精華大学准教授)

国の水俣病賠償責任を確定した関西訴訟の原告だった両親の遺志を継いで、その後も加害者に交渉を求め続けた患者の話を受けて、戦後日本の基盤構造理解の転換を迫った講師は。



小笹 恵

白井 聡

■「私と水俣病」—患者さんのお話から

12月14日(土)午後2時~4時

佐藤スエミ(水俣市在住、第二世代行政訴訟原告団長家族)

青木 理(ジャーナリスト)

細部にも目を凝らすジャーナリストとして良心派の信頼を得続ける講師が、水俣病行政に対して現在も裁判を続ける夫と一心同体で歩む患者から、さらに話を引き出す。



佐藤スエミ

青木 理

■映画「水俣の図・物語」

12月15日(日)午後2時~4時

土本典昭監督作品 1981年/カラー1時間51分

広島に被爆模様を「原爆の図」に結晶させた画家、丸木位里・俊夫妻が「水俣」を描く。石牟礼道子の詩、武満徹の音楽と重なる超絶のカメラワーク。日本映画ペンクラブほか多数入賞。



■お話とライブ「だから大まじめ！」

12月17日(火)午後7時~9時

杉本 肇(水俣病患者家族、漁師、芸人)

やうちブラザーズ

九州一円で大人気の自称ビジュアル系ロックバンド。その原点は患者だった母、杉本栄子。幼少のころ、親たちは次々に水俣病に倒れた。だからこそ、笑っていたい、笑わせたい。



■「私と水俣病」—患者さんのお話から

12月19日(木)午後7時~9時

夏田美智子(大阪府在住、人材紹介業、水俣病患者)

藤原辰史(農業史、京都大学准教授)

水俣病は食の問題でもある。食と農を通じて時代や社会の見えにくい姿を描いてきた講師が、他の患者や隣人のために生涯闘い続けた重症患者・仲村妙子の娘の話を聞いて語る。



夏田美智子

藤原辰史

■実川悠太さんと映画「わが街わが青春—石川さゆり水俣熱唱」を見る

12月21日(土)午後2時~4時

土本典昭監督作品 1976年/カラー43分

実川悠太(水俣フォーラム)

20歳を迎えた胎児性の患者たちが自ら発案した歌謡ショー。「チッソの城下町」と言われる水俣で初めて人前に立った記録。ここから、水俣病への差別偏見と「水俣の意味」を考える。



※ホールプログラム(160席)鑑賞のためには、展示会場とは別にもう1枚の入場券と500円が必要です。



街の中心に広がるチッソの水俣工場 '70



水銀排水の集積地 '60



胎児性水俣病患者 '72



動かなくなった手 '70

写真は桑原史成、塩田武史